

VI
7

法制調査會

現行教育法令中

憲法改正草案に抵触すると

思はれる部分

21. 7.

7-3
14

山崎 145

現行^{教育}法令中憲法改正草案に抵触すると思はれる
部分

現行法令	抵触部分	條 項
大學令	1. 大學教育の目的 2. 大學教員の入學資格	<p>第一條 大學ハ國家ニ須要ナル學術ノ理論及應用ヲ教授シ茲其ノ蘊奥ヲ攻究スルヲ以テ目的トシ兼テ人格ノ陶冶及國家思想ノ涵養ニ留意スヘキモノトス</p> <p>第十三條 第二項 大學教員ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認めラレタル者トス</p>
高等學校令	1. 高等學校教育の目的 2. 高等學校高等科ノ入學資格	<p>第一條 高等學校ハ皇國ノ道ニ則リテ男子ニ精深ナル程度ニ於テ高等普通教育ヲ施シ國家有用ノ人物ヲ鍊成シ大學教育ノ基礎ヲラシムルヲ以テ目的トス</p> <p>第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ高等學校修了生又ハ文部大臣ノ定ル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認めラレタル者トス</p>
專門學校令	專門學校教育の目的	<p>第一條 專門學校ハ皇國ノ道ニ則リテ高等ノ學術技藝ニ關スル教授ヲ施シ國家有用ノ人物ヲ鍊成スルヲ以テ目的トス</p>
師範教育令	師範學校 ^(教育) の目的	<p>第一條 師範學校ハ皇國ノ道ニ則リテ國民學校教員タルベキ者ヲ鍊成ラ為スヲ以テ目的トス</p>
中等學校令	中等學校教育の目的	<p>第一條 中等學校ハ皇國ノ道ニ則リテ高等普通教育又ハ實業教育ヲ施シ國民ノ基礎ヲ爲スヲ以テ目的トス</p>

現行法令

接觸部分

條

同

青年學校令

男子のみ義務制

第十二條 年令満十四歳ヲ超テ満十九歳

（満十九歳ニ達シタル日ニ於テ仍青年學校
本科ノ學年ノ中途ニ在リ者ニ付テハ其ノ學
年ノ終ニ至ル迄）男子ハ左ノ各号ノ一
ニ該當スル者ヲ除ク外其ノ保護者
ニ於テ青年學校ニ就學セシメ義務課
程ヲ履修セシムルコトヲ要ス
（左記畧）

2. 授業料徴集

第三十條 青年學校ニ於テハ授業料ヲ
徴集スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情
アルトキハ道府縣並ニ學校ニ在リテハ文
部大臣、其ノ他、學校ニ在リテハ地方長
官ノ認可ヲ受ケテ之ヲ徴集スルコト
ヲ得

3. 財政的事由に依り
設置せらるる地域の
義務就學者の免除

第三十七條 第三項
前二項ノ規定ニ依リ青年學校ヲ設置
ノ義務ヲ免除セラレタル区域内ノ義
務就學者ノ保護者ハ第十二條ニ
規定スル義務ヲ免除セラレタルモトス

國民學校令

1. 國民學校教育の
目的

第一條 國民學校ハ皇國ノ道ニ則
リテ初等普通教育ヲ施シ國民
ノ基礎的鍊成ヲ為スルヲ以テ目的トス

2. 教科科目中の「武道」

第四條 第四項
體鍊科ハ之ヲ分ケテ體操及武道
ノ科目トス但シ女兒ニ付テハ武道
ヲ缺クコトヲ得

3. 不具痾疾者の義務
免除

第九條 第一項
前條ノ規定ニ依リ就學子セシメラル
ベキ児童（學子令児童ト稱ス以下
同じ）ノ痾癩白痴又ハ不具痾
疾ノ為之ヲ就學セシムルコトハ能
ハズト認めタルトキハ市町村長ハ地方
長官ノ認可ヲ受ケ前條ニ規
定スル保護者ノ義務ヲ免除スル
コトヲ得

4. 財政的事由に依り
校設置せらるる地域の
義務就學者の免除

第十條 第二十八條ノ規定ニ依リ國民
學校設置ノ義務ヲ免セラレタル区
域内ノ學令児童ノ保護者ハ第九
條ニ規定スル保護者ノ義務ヲ
免除セラレタルモトス

現行法令	
抵觸部分	<p>5. 校舎、校地等を目的以外に使用の「兵事」</p> <p>6. 授業料徴集</p>
條 項	<p>第三十條 校舎、校地、校具及体操場、國民學校、目的以外に之ヲ使用スルコトヲ得ズ、但シ非常變災ノ場合又ハ教育、兵事、産業、衛生、慈善等ノ目的、爲特別ノ必要ナル場合ハ此ノ限ニ在ラス</p> <p>第三十六條 國民學校ニ於テハ、授業料ヲ徴集スルコトヲ得、但シ特修科ニ付テハ此ノ限ニ在ラス</p> <p>特別ノ事情アルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケ國民學校ニ於テ授業料ヲ徴集スルコトヲ得</p>

右の外現行の教育に關する法令は凡て勅令で定めらるるが、此は憲法改正草案第二十四條に抵觸する。